



宝石のような 隠れ家的美術館。

画家ギヨーム・デュビュフの邸に1924年に設立されたジャン=ジャック・エネール美術館。2000年に閉館したが、昨年再オープンを果たした。300点のエネール作品と少数だが、デュビュフの作品も展示。「19世紀の優雅で華やかな画家たちのスタイルを感じられる、隠れ家的ミューゼよ」

ジャン=ジャック・エネール美術館
Musée National Jean-Jacques Henner

43, avenue de Villiers 75017 ☎01・47・63・42・73
📍 MALESHERBES 🕒11時～18時(月、水～日)
11時～21時(第2木曜) 🔥火 カード: 📄、📱
www.musee-henner.fr

ウィークエンドの定番は、 「可愛いモダン」発見の散歩。

エミリー・マラン プレス・コンサルタント、オンラインディレクター



コーヒータイムは、 温もりのある空間で。

写真家の妻とインテリア番組でディレクターを務める夫が3月にオープンしたばかりのセレクトショップ。古い木材を再利用したインテリアは、温もり感が魅力。フランスのアンティークやモロッコの雑貨を眺めながら、クリヤンクール初のコーヒーショップの一角でカフェも堪能できる。

フリー
Flea

7, rue Voltaire 93400 Saint-Ouen ☎06・60・70・86・65 📍PORTE DE CLIGNANCOURT 🕒9時30～18時(月、金) 10時～18時(土、日) 🔥火～木 カード: 📄、📱 www.flea-st-ouen.com

ロンドンとニューヨークに留学経験のあるエミリー。パリで生まれ育った彼女は、この街の魅力を俯瞰で見られるようになったという。「扉の奥のシャープペトル(田舎風)な中庭や、隠れ家のようなテラスを発見した瞬間、パリは可愛い！って思う。外からは想像できないチャーミングな世界がこっそり隠れているのがこの街の魅力ね」
週末は、ビオのジュースが自慢のヌビオ(www.nubio.fr)や、カフェを併設した花屋が兼業のベオニーズ・カフェ



アーティな家具や雑貨を探しに。

「レトロポップなムードのセレクトが好き」と、エミリーはインテリアや空間演出のヒントに。フューチャリスティックなデザインとラウンドしたフォルムのファンという若きパリジャンふたり組が経営する、1970～80年代を中心とした家具とオブジェのギャラリーだ。

ウルトラ・モデルヌ Ultra Moderne

8, rue du Bourg l'Abbé 75003 ☎06・12・70・64・68 📍RAMBU TEAU, ÉTIENNE MARCEL 🕒14時～19時 🔥日、月 ※アポイントでオープンすることもあり カード: 📄、📱 www.ultra-moderne.fr





ハイセンスな選曲と花を楽しむ。

モデルでDJのクレモンティヌ・レヴィがオープンしたのは、カフェの一角が花屋というコンセプトショップ。日本製キントーのフィルターで淹れる香り高いカフェとグラノーラなどの自家製スイーツが楽しめる。ドリーミーな80sエレクトロやゆったりしたアンビエントなど、洗練されたBGMが心地よい。

ペオニーズ・カフェ・エ・フルール Peonies Café et Fleurs

81, rue du Faubourg Saint Denis 75010 ☎なし ④CH
ÂTEAU D'EAU ⑨9時~20時(火~土) 10時~16時
(日) ⑤月 カード: ④、⑤ www.peonies-paris.com



グルテンフリーのスイーツ。

「店の前を素通りできない!」とエミリーが毎週通うグルテンフリーのレストラン。特にショウガやココナッツミルクなどを使用した繊細な味わいのスイーツがお気に入り。SNS映えするビジュアルにも定評がある。「ガストロノミーのクオリティ」を掲げ、日本人シェフが腕を振るう人気店だ。

パイナップルに黒糖蜜やココナッツミルクを加えた「Panna Cocco」8ユーロ

ノグル Noglù

38, rue de Saintonge 75003 ☎01・42・71・15・34
④ FILLES DU CALVAIRE ⑨12時~14時30分 L.O.、15時~17時45分 L.O.、19時30分~22時30分 L.O. (水~金) 12時~17時45分 L.O.、19時30分~22時30分 L.O. (土、日) ⑤月、火
カード: ④、⑤ 予約したほうがいい www.noglu.fr



Emily Marant

パリ生まれ。デザイナー、イザベル・マランの姪。モードマネジメントを専攻し、アートビジネスを学ぶ。美術館やチャンネルなどでインターンシップを経験した後、2015年「スタジオ・マラン」をスタート。コンサルタント業務を手がける。www.studiomarant.com

エ・エ・フルールから始まる。「最近、異業種から起業する人や出店する人が増えて、新世代の勢いを感じる。彼らのポジティブなパワーが街を活性化させてるのよ」

ギャラリイや蚤の市を巡るのも定番コースだ。「パリの芸術やデザインは昔の作品から着想を得たものが圧倒的に素晴らしから、古いものを見るのが好き。特にシンプルでカラフルなミッドセンチュリーのファン。究極のモダニズムよ」。マルシェ・ノワール(www.marchenoir.co)のアフリカの器や、ア・ドゥマン(www.design-only.com)のヴィンテージ家具からインスパイアされることも多いというエミリー。週末は、古きよき時代のエスプリと新しいムーブメントを探る散策。可愛くもあり、洗練されたモダンテイをエミリーは探し続ける。